

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

23007 栄小学校

1. 学校教育目標

考える子……積極的に問題解決にあたる子の育成
 やさしい子……助け合い励まし合う子の育成
 やりぬく子……最後まで根気強く頑張る子の育成
 たくましい子……自ら体を鍛え生き生きとことにあたる子の育成

2. 本年度の重点目標

楽しい学校 ~豊かな「つながり」の中で「やりぬく子」を育む~ 子どもを真ん中に据えた学校組織のアップデート

3. 自己評価結果に対する

学校関係者評価

※達成状況について

A……十分達成されている(100~90%) B……おおむね達成されている(90~80%)
 C……達成が十分ではない(80~70%) D……全く達成されていない(70%~)

	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	評価と改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点目標達成に向けた取組	【学ぶ力の育成】 ①分かる、できるを 実感させるための 日々の授業の充実	A	・「学ぶ力育成プログラム」に基づいた意図的、計画的な指導を積み重ねてきた。 ・「学び合い、高め合う授業」を心掛けてきた。 ・「自分の良さを発揮し、主体的に学ぶ子どもの育成を目指して授業づくりを行ってきた。 ※次年度も、日々の授業を充実させていくための関わりを継続して行っていく。	A	A
	【学ぶ力の育成】 ②校内研究・研修の 充実	A	・低、中、高、特別支援の4ブロックに分け、授業公開を行うことで研究・研修を進めてきた。 ・教員によるミニ研修を企画・実践することで研修を深めることができた。 ・ICT 機器を活用した授業実践を行うことで、教師が具体的なイメージをもち、授業づくりを行うことができた。	A	A
	【学ぶ力の育成】 ③少人数指導や 個別指導の充実	B	・算数を中心に少人数指導や個別指導を進めてきたことで、児童の学習の理解に繋げることができた。 ※次年度も、個に応じたきめ細やかな指導を継続していく。	A	A
	【学ぶ力の育成】 ④学習習慣の確立と 基礎学力の定着	A	・「さっぽろっこ学びのすすめ」を推進し、家庭と連携して学習習慣の確立と家庭学習の習慣化を図ってきた。 ※次年度も、低学年では宿題を中心に、高学年では自分で学習内容を考えて行う家庭学習を中心とした取組を継続していく。	A	A
	【豊かな心の育成】 ⑤異学年交流の 充実	A	・ふれあい活動をとおして豊かな人間関係を築く取組を意図的に計画して行ってきた。 ※次年度もふれあい活動を意図的に計画し、子どもたちに満足感、達成感を味わわせるための工夫をしていく。	A	A

重点目標達成に向けた取組	【豊かな心の育成】 ⑥校内・校外生活の意識向上	A	・自分からきまりを守ろうとする子の育成に努めてきた。 ・学級指導を粘り強くすることで、落ち着いて生活する子どもたちが増えてきた。 ※次年度も、教師自らがお手本となり、各学年の発達段階に応じた取組を推進していく。	A	A
	【豊かな心の育成】 ⑦読書活動の充実	A	・週3回の朝読書、図書館利用、読書週間の設定など本と親しむ活動を推進してきた。 ※次年度も、家庭で読書活動を推進していくための取組を学年の発達段階に応じて推進していく。	A	A
	【豊かな心の育成】 ⑧儀式的行事の充実	B	・入学式は5～6年生、卒業式は5～6年生の参加とし、卒業式から入学式に向けて、効果的に高学年の意識を高めることができるように意図的に計画してきた。 ※次年度も数少ない儀式的行事をとおして、子どもたち一人一人が公共の精神を養い、場に応じた挨拶や行動ができるように計画していく。	A	A
	【健やかな体の育成】 ⑨運動に親しむ指導の充実	A	・竹馬や一輪車、ドッジボールコートを設置をとおして運動に親しむ子どもたちが増えた。 ・跳び箱マット週間を設け、用具を体育館に常設することで計画的・効率的に指導をすることができた。 ※次年度も、「健やかな体育成プログラム」に基づき、運動量が確保された体育授業や休み時間の外遊びを推進していく。	A	A
	【健やかな体の育成】 ⑩健康な生活教育の推進	A	・食育を含む健康安全教育や家庭と連携した食育活動を推進してきた。 ・健康安全への意識を高めるための保健指導を意図的に計画してきた。 ※次年度も、年間計画をしっかりと立て、意図的・効果的な活動を推進していく。	A	A
	【学校創造】 ⑩学年学級経営の充実	A	・集団にとっても個人にとっても居心地のよい学年学級経営に努めてきた。 ※次年度も、挨拶やきまりを守ることの大切さなど、学年学級で取り組めるような関わりを重視していく。	A	A
	【学校創造】 ⑪総合的な学習生活科の充実	A	・地域の特性を生かした教育活動を計画、推進してきた。 ※次年度は、CSが本格実施となるので、より地域との結びつきを強めた活動を計画していく。	A	A
	【学校創造】 ⑫異校種間連携の充実	A	・中学校区(栄町中・栄小・栄町小・栄西小)のパートナー校での合同研修を行ってきた。 ・あかしや幼稚園児、あおぞら保育園との交流活動を行った。 ※次年度も、「幼保小中」の異校種間連携を意図的に計画的に推進していく。	A	A
その他の取組	・地域・保護者との連携 ・防災安全教育の充実 ・いじめ防止への取組	A	・学校保護者連絡アプリ「すぐる」を活用し、デジタルでの情報共有を進めてきた。 ●放課後の過ごし方(帰宅時刻・遊び方・交通ルールの順守)について、学校と保護者、地域が一体となって見守っていく必要がある。 ※次年度は、熊対策なども含めた、より現実的な引き取り訓練等を計画していく。 ・いじめに関するアンケート調査等を年4回行い、児童との面談をとおして対応してきた。また、いじめ防止対策委員会を月1回開き、情報共有に努めてきた。さらに、教育相談等をとおして、保護者との状況共有に努めてきた。	A	A

【学校関係者評価委員の意見】（抜粋）

- 昨年度緊急の案件として熊出没がありました。そこで PTA が熊スプレー購入に会費から支出させていただきました。い、会出没時に自動引取に教員が自家用車で迎えに来る保護者の誘導のため命を張って従事して下さるとい責任感に深く感銘を受けました。
- 評価委員として栄小とつながりを持たせて頂き、先生方の評価を拝見し、安全にお子さんを預かる大変さを痛感しました。世の中の多様化に対応しながら学習を重点にされながら多くの事に目配りされているご様子が評価のいたる所に感じられ頭が下がりました。
- 縄跳びはいつの時代も子どもたちの遊びになっている。1人で複数人でもちようできるのがいいですね。
- スマホや SNS などにより本などを読む機会や量が少なくなってくる中で週に3回の読書タイムは是非大切にしてほしいです。
- 子どもたちにとってよりよい教育環境を整えるために、先生方が日々工夫し、丁寧に教育活動を進めてくださっていることがよく伝わってきました。
- 子どもたちの意欲ややる気を高めるために、様々な工夫を積み重ねておられ、その積み重ねが子どもたちの学びにつながっていることを感じました。
- 幼保小の連携においても、日頃から丁寧にご対応いただき、子どもたちの円滑な育ちと学びの接続を大切にしてくださっていることに感謝しております。

